

Sapporo エコライフ実践校の取り組み

ねらい・目的



学校版環境ISOプログラムという地球規模の環境保全をめざし、分野・領域を問わず、あらゆる教育活動を通じて、生徒、教職員の環境意識を高めていくことで、環境にやさしい学校生活の継続を実践する環境教育プログラムがある。この取り組みでは特にPDCAサイクルを重視し、学校の生徒が主体的に計画した環境方針や行動目標を教職員と共有し、学校環境や意識の向上を図ることが重要であるが、環境方針や基準の策定等取り組みとして難しい側面がある。

そこで、このプログラムの趣旨を活かし、行動目標化の基準に札幌市が実施しているエコライフレポートを取り入れる活動を設定する。これにより、主体的に取り組みやすい活動で、行動化が子どもの中から自然に促される。また、4回のエコライフレポートの実施により、PDCAサイクルを意識した活動が、継続的に、恒常的な活動として身につけていくことが可能になる。また、学校全体の中での活動であることから、その成果を捉えやすい活動である。

取り組みの背景として



環境教育の中で、PDCAサイクルを意識し、持続可能な取り組みを行わなければ環境問題に対する行動化を継続的に進めていくことができません。

このままだと

子どもが環境教育に取り組む姿勢・意識が一時的なものとなり、継続的な環境行動をとることが困難な状況が生じます。

だから

子どもの環境行動が継続的に進められるように、「学校としての計画的な活動の意識化」「PDCAサイクルを感得できる取り組みの体験」が必要になります。

取り組み項目(実施方法)



■ 認 定

エコライフレポートを全校活動として提出する学校に札幌市から「Sapporo エコライフ実践校」の認定を行う。認定を受ける学校は、年4回のエコライフレポートを提出する。

■ 認定期間

認定期間は、初回のエコライフレポート提出から1年とする。

■ 報 告

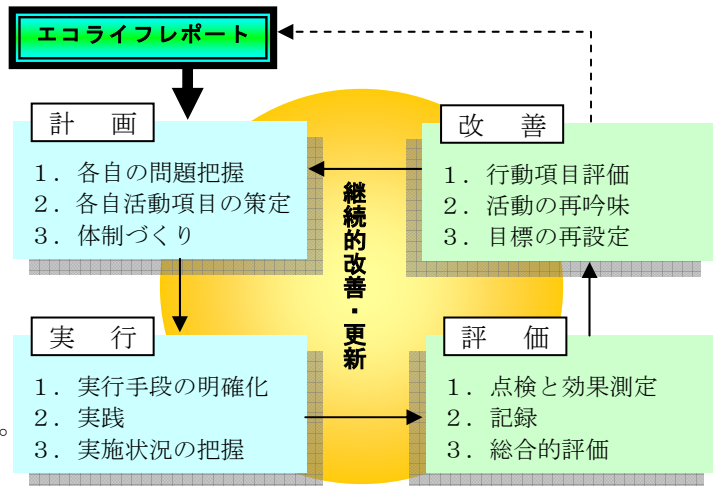
認定校は4回のエコライフレポート実施に関する成果の報告を行う。報告は、学校の自己評価を中心として提出するものとする。4回の実施に伴うPDCAサイクルを明確にする。

■評価とPDCAサイクルの重視

活動を継続的な行動に結びつけるためには、各生徒が自分自身の活動を質的、量的に評価していく必要がある。そのための委員会活動などとタイアップしながら、各校が評価方法を設定することが重要である。

その際に重視することは、右図のようなエコライフレポートの活動を基準にすえたPDCAサイクルを意識した活動になっているかという部分である。

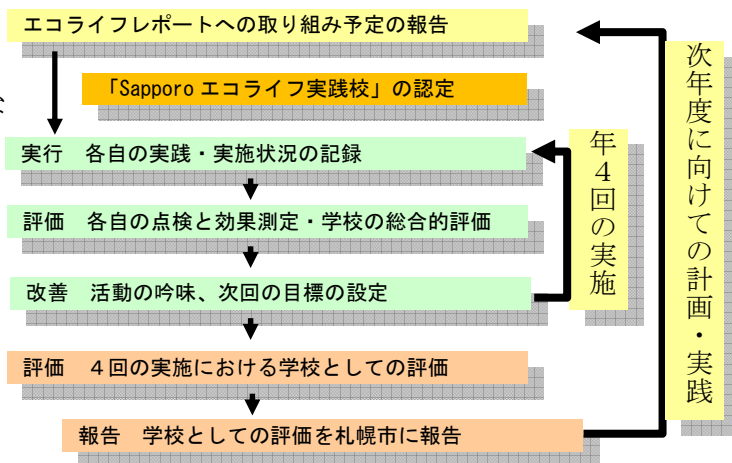
1回目のエコライフレポートにより実行した活動を評価し、その評価を元に次のエコライフレポートの計画・実践を行うことである。



■活動フロー

このSapporoエコライフ実践校の認定は、基本的に右のようなフローによって実行されていく。重要なことは、活動を一過性の活動にするのではなく、評価・改善を意識し、継続的な行動へとつなげていくことである。

その意味から学校からの報告は書式を提示し、簡単なものとする。



取り組み1 エコライフレポートの取り組み方針を策定

ポイント

- ・学校教育活動を通じての環境教育の位置づけや方向性に即して、エコライフレポートを実施する意義を考えましょう。その意義を全校生徒で共有しましょう。
- ・生徒や教職員が主体的で協同的に活動していくために目的や行動の基準をエコライフレポートに求めます。お互いに何を行うのかという方向性を明確にしましょう。

「何のために」「何を行う」という方向性を明確にして策定します。

取り組み2

計画を作成しよう

ポイント

- ・各自の問題把握
広い視点から、背景を捉えます。
- ・活動項目の策定
より具体的な取り組みとして、自分が確実に実行できることが前提です。
- ・体制づくり
「集約を〇〇委員会が行う」など組織的な体制づくりを明確にします。

■ 行動項目の策定

行動項目は、生徒一人一人に共有されるように場面設定を明確にして、その成果が明らかにできるように配慮します。

『ごみの分別をきちんと行う』
「誰が」：自分自身が
「いつ」：毎日
「何を」：自分の部屋のごみ
「どのように」：家のまとも用のごみ箱に

取り組み3

実行してみよう

ポイント

- ・手段の明確化
実践が行われる段階で、何に取り組むかという手段の明確化と評価が合わせて生徒に理解されていることが大切です。
- ・実践と成果の提示
実践と同時に成果を記録していくことが必要です。成果の記録や、記録の仲間との交流は主体的環境意識の高まりを引き出します。
- ・実施状況の把握
活動を行いながら各自が評価し、学校として状況把握を図ります。

取り組み4

評価してみよう

ポイント

- ・点検と効果測定
自己評価を中心に行うことから、できる限り、具体的な記録やできる場合には効果測定を考慮しておく必要もあります。
- ・記録
記録は、生徒の内発的な動機付けを促す手段になります。分かりやすい記録とそのまとめが、皆できる取り組みが必要です。
- ・総合的評価
学校として、実施状況がどの程度か把握しておきましょう。

取り組み5

改善してみよう

ポイント

- ・活動の再吟味・目標の再吟味
環境への行動化は継続的な改善に支えられ、更新されていくために不可欠な要素です。現時点での取り組みが次の方向性になっていくように、実施活動の再吟味・目標の再設定を図る必要があります。

発展的なプログラム



既存のエコライフレポートに実践校の特色を加えた、学校独自のエコライフレポートとして作成し、年間を通してPDCAサイクルにのっとり実践、行動化につなげていく。このことにより、より学校の特色を出し、生徒の側に立った環境実践が可能になる。

取り組み効果



効果 1 エコライフレポートに従った行動化

エコライフレポートを基準として活動を行うことで、共通意識の元で具体的な行動ができるとともに、相互の交流が可能になり行動化の定着につながる。

効果 2 PDCAサイクルに従った行動化の継続

PDCAサイクルの設定により、成果を捉え、その成果をより効果的に用いることを意識し、次回の改善につながる活動を年4回体験することで、行動化が継続して行われることを考えた活動ができる。

他のプログラムとのつながり



■地球温暖化とエネルギーを考える（中学・高校編）

世界のエネルギー事情を通じて、地球温暖化問題について考える。

■札幌の電気を考えよう（中学・高校編）

電気の消費とCO₂排出量増加の関連を理解し、省エネに取り組む。

■給食用牛乳パックをリサイクルしよう（中学・高校編）

中学校の生徒会を中心に学校全体で牛乳パックのリサイクルに取り組む。

参考資料等



1

福岡県「ふくおか式学校版環境ISO」

http://kankyo.city.fukuoka.lg.jp/study/kyozai/school_iso/index.html

PDCAの流れを重視し、点検と見直しの流れがよく実践されています。

2

福井市「学校版環境ISO」

<http://www.city.fukui.lg.jp/d210/kankyo/education/school/index.html>

役割分担を行いながら細かな評価を行いながら活動を組んでいます。

3

札幌市環境保全のページ「さっぽろエコ市民運動」

<http://www.city.sapporo.jp/kankyo/ondanka/ecoshimin/index.html>

札幌市が進めるエコ市民運動として「エコライフレポート」について記載されています。